

# 日本応用経済学会ニュースレター

Japan Association of Applied Economics Newsletter

第 12 号 2020 年 9 月

日本応用経済学会事務局：〒819-0395 福岡市西区元岡 九州大学経済学部

TEL/FAX：080(5321)7299

E-mail: [jaae@jaae.org](mailto:jaae@jaae.org)

<http://www.jaae.org/>

---

## 目次

会長挨拶

前会長挨拶

理事会報告

学会誌編集委員会

学会賞選考委員会

国際交流委員会

紹介！研究室

2020 年度秋季大会のご案内

事務局だより

2019 年度決算資料

2020 年度予算資料

## I. 会長挨拶

2020 年 9 月  
日本応用経済学会  
会長 焼田 党

今年度に入ってから新型コロナウイルス感染症拡大にともなう様々な動きが、大学の教育研究に大きな影響をもたらしています。われわれもオンライン授業を実施することになり、学会も国内外を問わずオンラインでの開催に参加することになりました。変化はどのようなものであれ、最初は戸惑いをもたらしますから、「もとに戻りたい」とう感情を生じさせることになります。特に「小職のような高齢者」にとってはその苦痛がかなり大きいものでした。しかし、何事もそうであるように、物事には悪い面と良い面が必ずあります。これは、学会のあり方についても当てはまると思います。少なくとも、これまでの開催方法について、その意味を考えさせてくれると思います。

本学会でも春の大会がオンライン開催となり、秋の大会もオンライン開催が決定されています。事務局や開催準備に携わってこられた方やこれから携わっていただく方々には、これまでとは違う形での準備となり、余計な負担を負っていただくことになり深く感謝しています。会場に集まり「唾を飛ばしながら」議論をすることと画面に向かって議論をすることは変わらないと思われる方もおられるでしょうし、特に報告会場外での集まりに大きな意味があると考えられる方もおられるでしょう。集合体としての学会としては後者がより重要であるようにも思えます。

今年度につきましては、春の学会でのシンポジウムを受けた形で、学会として新型コロナウイルス感染症に関する研究書の発行というご提案があり、お応えすることになりました。応用経済学会としてはぴったりの多面的な議論が盛られた研究書となるものと期待しています。このような動きは、オンライン開催の準備という費用はあります

が、大きなメリットでもあり、学会としての在り方を示す一つの方向ではないかと思います。

新しい常態がどのようなものであるかは未知ですが、いずれに致しましても会員の皆様のご研究のお手伝いと学会の発展に少しでも貢献できればと思っております。よろしくお願いいたします。

## II. 前会長挨拶

2020 年 9 月  
日本応用経済学会  
前会長 田中廣滋

私は学会の活動におけるオープンジャーナルの活用の仕方について、調査をしていました。その結果を理事会で議論してまとめる段階になって、新型コロナの感染拡大が顕著になり、理事会の開催が困難になってしまいました。この議論は今回見送りにになりました。2020 年に入って Covid-19 の感染者の世界的な拡大が顕著になりました。学会の会場に予定されていた各地の大学が感染防止のため学会の開催中止を要請するという事態になって、学会はオンライン開催という対応になりました。

ところで、2020 年 3 月には英国(ロンドン)は都市封鎖(ロックダウン)を実施することになりました。英国政府はこの危機を克服するために、プロジェクトをすばやく立ち上げましたが、実施形態はテレワークになります。私もこのテレワークに招待されました。この 4 か月間ロンドンでのテレワークで体験したことから印象的なことをお話しします。この数年、フィンテックによる技術革新が進行したため、金融産業はこのコロナショックのなかでも、機能し続けています。それでも、実態面でグローバル社会が被った経済的損失は 1930 年代の世界恐慌と比較されるほどの巨額になると予想されます。世界的に見れば、経済的な崩壊が始まった地域も出始めているのに、各国の政府は自

国の救済策だけで他には余裕がありません。私も政府と連携した民間金融のセフティーネットワークの構想に参加しています。ところで、この国際金融のネットワーク構築による事業展開には大規模な資金が必要ですので、今回は急な立ち上げなことからプロジェクトの先細りが懸念されました。ところが、金融、ICTをはじめとする多く分野の企業が賛同して資金の提供と事業への支援を開始しました。コロナ危機を乗り越えるためには、社会の構成員の間での連携と協力が必要なことは、よく理解されていると言えますが、経済システムの観点からは、マーケット主導による中央集権的な仕組みにコミュニティの機能を重視した分権的な機能を組み込んでいくことになります。

### Ⅲ. 2019 年度理事会報告（秋）

#### 令和元年度第 2 回理事会報告

日時：令和元年 10 月 26 日（土）11:時 00 分～11 時 50 分

会場：東京経済大学国分寺キャンパス第四研究センター4 階 4422

出席者：田中、藪田、福重、多和田、永星、坂上、細江、青木、林田、藤田、木原、渋澤、慶田、小川、三浦、中村、渡邊、内藤、長岡、野崎、池田以上 21 名

開催校である東京経済大学の長岡貞男実行委員長から挨拶が行われた。

#### 1. 新入会者・退会者承認

資料 1 に基づき、田中会長より新入会者、退会者について説明があり、承認された。

#### 2. 国際交流の件（実績報告）

中村保委員長より資料 2 に基づき、説明が行われた。秋季大会に韓国応用経済学会から 5 名が参加。

11 月 15 日の韓国通商経済学会が開催され、4 名が参加予定。釜山大学より 11 月 14 日午後に大学院生向けの報告か、特別講演の依頼があったことが報告された。

#### 3. 編集委員会報告

小川編集委員長より第 13 巻の編集状況について説明が行われ、承認された。

#### 4. 学会賞の件

藪田副会長から資料に基づき、学術論文賞、奨励賞の選考手続きの一部変更について説明が行われた。選考委員長は学会誌編集委員会委員長に意見を求めることができ、編集委員会委員長は担当委員と協議した上で、学会賞選考委員長に回答することと承認された。

#### 5. 来年度春季大会開催校について

次年度春季大会開催校として熊本大学での開催が承認された。開催校の熊本大学を代表して池田先生より説明があり、6 月 20 日、21 日での開催が説明され、承認された。

#### 6. その他

学会誌の今後の在り方について田中会長より説明があり、今後、情報を収集・共有化し、来年の常務理事会で検討することが承認された。

#### 報告

#### 1. 来年度春季大会プログラム委員長について

次回プログラム委員長について、今後、急いで選定することになった。

#### 2. 来年度秋季大会開催校について

次年度秋季大会は令和 2 年 10 月 24 日（土）、25 日（日）に中央大学で開催予定であることが報告された。また、再来年以降については企画委員を中心に検討していきたい旨を細江常務理事より説明された。

### 3. その他

- 韓国の学会との論文集について韓国通商経済学会との発行済み、韓国応用経済学会との論文集は編集がほぼ終わり、間もなく発行予定であることが細江常務理事より報告された。

- 西日本支部会について

細江常務理事より、8月31日に支部会の研究会を開催されたこと、そして、単独の研究会を春に開催を予定していることが説明された。また、関西、関東、名古屋地区の支部の設立の希望があれば教えて欲しい旨の発言があった。

### 4. 来年度開催校より挨拶

議題4で挨拶も行われたので、開催校の池田大会実行委員長より簡単に再度、挨拶が行われた。

以上をもって終了した。

## IV-1. 2020年度第1回理事会報告

2020年度第1回、第2回理事会は新型コロナウイルスによる感染症拡大防止措置により、持ち回り開催・メール審議にて行われました。

### 2020年度 第1回理事会

審議期間：令和2年4月7日(火)～4月13日(月)  
13時00分

方法：持ち回り開催・メール審議

### 議題

1. 令和2年度春季大会（開催校：熊本大学）の通常開催の中止に関する件
2. 令和2年度春季大会（開催校：熊本大学）の代替措置の検討をすることについて

以上について、了承され、議題2の代替措置を早急に検討するため、関係理事の先生方や情報リテラシー等に詳しい先生方、および事務局をメンバ

ーとする「検討運営委員会」を設置して検討することとなった。

## IV-2. 2020年度第2回理事会報告

### 2020年度 第2回理事会

審議期間：令和2年4月27日(月)～令和2年5月3日(日)13時00分

方法：持ち回り開催・メール審議

### 議題

1. 2020年度春季大会（開催校：熊本大学）の通常開催の中止にともなう代替措置の実施の大枠に関する件

(ア) 2020年度春季大会の通常開催の中止に代替する措置として、当初予定していた期日（6月20日(土)、21日(日)）に春季大会をzoomアプリを使ったオンライン会議で行う。

(イ) 現在、プログラム委員会で作成中の大会プログラムを基本にオンライン会議に対応するようセッション運営・時間配分などの詳細を今後、運営検討委員会で決める。また、プログラム変更などが必要な場合、プログラム委員会および事務局が調整をおこなう。

(ウ) 理事会は当該オンライン会議でおこなう。

(エ) 総会は一般会員にメールで諮り、議題は必要最小限のもの（会長・副会長 改選など）とする。以上のことが審議され、承認された。

## IV-3. 2020年度第3回理事会報告

### 2020年度第3回理事会

日時：令和2年6月20日(土)11:00～12:30

会議形式：Zoom 使用によるオンライン会議

出席者：田中、焼田、薮田、福重、成生、坂上、細江、青木、松波、藤田、大内田、近藤、福澤、小川、三浦、中村保、中山、内藤、堀、柳瀬、長岡、野崎、瀧本、中村(大)以上、24名

司会の坂上常務理事より挨拶があり，議事に移った。

## 議題

### 1. 新入会員・退会員承認

事務局より報告があり資料の通り 11 名の入会，6 名の退会が承認された。

### 2. 会計報告

事務局より令和元年度会計報告が資料に基づいて行われた。監事の中村（大）氏より会計監査報告があり，適正に処理されていることが報告され，承認された。

### 3. 予算

事務局より令和 2 年度予算案について資料 3 に基づいて事務局より説明され，承認された。

### 4. 編集委員会報告

第 14 巻の編集状況について編集委員会の小川委員長より報告され，承認された。

### 5. 編集委員会規定について

投稿規定の一部改正について編集委員会委員長より説明が行われ，承認された。

### 6. 学会賞

選考結果・理由について成生委員長より説明が行われ，承認された。

### 7. 国際交流委員会報告

中村保委員長から資料に基づいて実績報告の説明が行われ，承認された。

### 8. 役員改選 I

新会長，新副会長についての提案があり，会長に焼田党氏（南山大学）が承認された。副会長に藪田雅弘氏（中央大学）の再任，ならびに長岡貞男氏（東京経済大学）が承認された。

### 9. 役員改選 II

理事会改選について，常務理事，理事について資料に基づき，細江常務理事より説明があり，承認された。新常務理事，新理事（2020 年 6 月～2022 年 6 月）は以下の通り。（下線は新任者）

#### 常務理事

福重元嗣（大阪大学），成生達彦（同志社大学）  
木原隆司（獨協大学），永星浩一\*（福岡大学），坂上智哉\*\*（熊本学園大学），藪田雅弘\*\*（中央大学），野崎竜太郎\*\*\*（久留米大学）

\*財務担当，\*\*総務担当，\*\*\*事務局

#### 理事

赤羽根靖雅（福岡大学），秋本耕二（久留米大学），青木玲子（公正取引委員会），秋山優（九州産業大学），伊ヶ崎大理（日本女子大学），石川路子（甲南大学），大内田康德（広島大学），大川隆夫（立命館大学），小川光（東京大学），慶田收（熊本学園大学），大森達也（中京大学），洪澤博幸（豊橋技術科学大学），瀧井貞行（西南学院大学），田中廣滋（中央大学名誉教授），瀧本太郎（九州大学），多和田眞（愛知学院大学），土井潤子（関西大学），中村大輔（中央大学），中村保（神戸大学），中山恵子（中京大学），内藤徹（同志社大学），林田実（北九州市立大学），藤田康範（慶應義塾大学），福澤勝彦（長崎大学），細江守紀（九州大学名誉教授），堀宜昭（九州大学），松波淳也（法政大学），三浦功（九州大学），柳瀬明彦（名古屋大学），渡邊淳一（福岡大学）

監事：森田充（青山学院大学）

（氏名（所属）の下線は新任）

以上

### 10. 委員改選

資料に基づき委員会改選案について細江常務理事より説明が行われ，承認された。

### 1 1. 今年度秋季大会について

細江常務理事より新型コロナウイルスの影響を鑑み、秋季大会の開催方法の検討について説明があった。審議の結果、オンライン会議で実施することで承認された。

### 1 2. 持ち回り総会について

事務局より、総会の実施方法について持ち回り（メール）で実施したい旨が説明され、承認された。

### 1 3. 名誉理事

名誉理事に奥野（藤原）正寛氏（東京大学名誉教授）、大住圭介氏（九州大学名誉教授）を推薦したい旨が説明され、承認された。

### 1 4. 来年度春季大会（同志社大学）、秋季大会（北星学園大学）について

次年度大会について、春季大会は同志社大学、秋季大会は北星学園大学での開催が承認された。

### 1 5. その他

細江常務理事より、次のオンライン大会では、企画を考え、充実させることを計画したいことが説明され、了承された。

細江常務理事より、新型コロナウイルスに関する研究について学会として出版し、発展に貢献できればと考えていることが説明され、了承された。

## V. 「応用経済学研究」編集委員会報告

「応用経済学研究」編集委員会報告編集委員長  
小川光（東京大学）

**報告 1.** 投稿論文の査読の進捗について説明があった。次号に向けては、採択が 1 本、修正のうえ再投稿依頼中が 3 本という現状の報告があった。続いて、コロナ感染症の問題のためか、昨年と比べると投稿数が圧倒的に少ないので、積極的な投

稿の依頼があった。参考情報として、審査期間の迅速化を進めており、2020 年に入ってから投稿された論文については平均 1 ヶ月、早いものは 2 週間で結果を戻しているという報告があった。

**報告 2.** 二重投稿が起きた場合の問題に対応するために、投稿規定の一部改訂（規定 4 の改訂）が提案されて承認された。

## VI. 2018 年度学会賞について

2019 年度学会賞について

学会賞選考委員長  
成生達彦（同志社大学）

### 学会賞

宮澤和俊氏（同志社大学）

（受賞理由）

宮澤和俊氏は国際的な課税競争、公的介護保険、年金や公教育などの *Public economics* さらには *Population economics* や *Family economics* の分野でも精力的な研究を行い、その成果は *European Economic Review*, *Southern Economic Journal*, *Journal of Risk and Insurance* や *Journal of Population Economics* などの査読付き国際的学術誌に掲載されている。また、昨年には『財政学』（ライブラリ今日の経済学 12）の教科書を新世社から出版している。さらに、2015 年度の推薦講演「少子化対策としての国債管理政策」を行うなど、本学会への貢献も大きい。

### 学術論文賞

池田剛士氏（大東文化大学）  
丹野忠晋氏（拓殖大学）

（受賞理由）

論文賞の選考対象となった業績は「*How Should We Protect Innovations?*」（応用経済学研究 第 13 巻に掲載）である。この論文では、複占企業の 1 つが費用削減投資を行い、他方がその成果の一部を模倣する状況で、政府が経済厚生を最大にする

模倣率を設定できると想定している。模倣率が高ければ事後的な利用効率は向上するが、投資水準は低くなる。したがって政府は、投資効率が低い時には模倣率を低く設定し、投資企業の積極的な投資を促すが、投資効率が低い（それゆえ投資水準が低い）時には、事後的な利用効率のために高い模倣率を設定する。後者の場合、複占企業の投資水準は低くなり、（模倣から独立な）独占企業の投資水準を下回るとともに、経済厚生も独占市場よりも少なくなる。このように、独占市場の方が複占市場よりも経済厚生が大きくなるという逆説的な結果を導いている。

**奨励賞** 該当者なし

**著作賞** 佐藤茂春氏（中京大学）  
（受賞理由）

著作賞の選考対象となった業績は『契約と法の経済分析』、勁草書房 2020 年である。

本書の第 1 部（第 2~4 章）では契約についての理論的な検討を行い、例えば、関係特定の投資を逐次的に行う状況では、オプション契約と暗黙的契約を併用することで、より容易に合意が遵守されると主張している（第 3 章）。契約が遵守されるためには、不履行が生じたときの司法による法的救済が必要である。第 2 部（第 5~7 章）では、法（救済ルール）に関する理論的な検討を行い、約定賠償ルールと信頼利益ルールを比較し、後者の方が有効である可能性を論じている（第 5 章）。さらに第三部（第 8~9 章）では、第 2~3 部の検討結果を住宅市場に適用し、借地借家法や定期借家権制度について議論し、サーチモデルを用いて、後者が空屋率を高めて家賃を低める効果を持つと論じている（第 9 章）。

本書では、契約理論や法と経済学分野の先行研究を踏まえた上で、適切な検討にもとづいて、（第 3 部を中心に）新奇性のある主張が行われており、日本応用経済学会著作賞に値する研究書である。

また、佐藤氏は日本応用経済学会編「ベーシック応用経済学」（勁草書房）の第 4 章「進化ゲームと法ルール」を執筆するなど、本学会への貢献も大きい。

## VII. 国際交流委員会

国際交流員会報告

国際交流委員会委員長  
中村保（神戸大学）

### 1. 韓国応用経済学会（KAAE）の年次大会への派遣

4月24日・25日に開催予定であったKAAEの年次大会への本学会から派遣を進めていましたが、3月中旬に派遣の中止を決定して連絡しました。その際に、KAAEから大会を無期限延期する旨の連絡がありました。開催について現時点ではご連絡はいただいております。

### 2. 韓国経済通商学会（KEBA）から春季大会への招聘

韓国経済通商学会(KEBA)から今年度のJAAE春季大会への派遣を断念する旨のご連絡がありましたので、今年度春季大会への招聘は見送りしました。

## VIII. 紹介！研究室

今回は、熊本学園大学経済学部の熊谷啓希先生の研究室をご紹介します。

熊谷啓希（熊本学園大学）



コーポレートガバナンスについての理論分析をおこなっています。最近、近年の社外取締役比率の高まりをうけて、最適な社外取締役比率がど

のように決めるのかを明らかにする研究を進めています。企業統治強化が叫ばれ、社外取締役を増員する企業が多くなっていますが、このような画一的な動きは必ずしも各企業にとっては望ましくない可能性があります。

熊谷研究室では、まず法と経済学のテキストを輪読しつつ、その基本的な考え方を身につけてもらっています。法ルールがどのように人々のインセンティブを変えるのか、という視点をぜひ身につけてほしいです。なぜかサッカー部が多い熊谷研究室は、ゼミ中も部活のようなノリでフレンドリーにやっています。

また、今年度は一時期対面でのゼミができなくなってしまい、Zoom を用いて学生に報告してもらうという方法をとりました。教員の苦悩をよそに学生は楽しんでいるようで、頼もしさを感じましたね。

## IX. 春季大会について

理事会報告にもありましたように、2020 年度春季大会は、当初、中央大学で開催される予定でしたが、11 月 21 日（土）－22 日（日）にオンライン大会として開催することになりました。詳細は学会ホームページをご覧ください。

## X. 事務局便り

今年度は、コロナ禍のため、各種の学会がオンライン開催もしくは中止となっています。本学会も学会初のオンライン開催となりましたが、予想以上の盛会になったと思っております。急遽、オンライン開催への変更になったため、プログラム委員長の慶田収先生（熊本学園大学）や大会委員長の池田康弘先生（熊本大学）、そして急遽代替開催の準備委員長となった薮田雅弘先生（中央大学）には大変ご苦勞をお掛けしたことをお詫びすると同時に盛会に終わりましたことに感謝する次第です。

さて、このニューズレターの発刊も 12 号となり

ました。12 年間を振り返りますと経済のみならず学会の環境も大きく変化しました。こうした変化に柔軟に対応しつつ、社会に何らかの貢献ができる学会であればと思う次第です。

（ニューズレター作成担当 内藤徹（同志社大学））



令和元年度 日本応用経済学会 会計報告  
(令和元年4月1日～令和2年3月31日)

1. 収入の部

| 項目       | 予算額       | 決算額(b)    | 差額(b)-(a) |
|----------|-----------|-----------|-----------|
| 繰越金      | 4,050,437 | 4,050,437 | 0         |
| 会費収入     | 3,950,000 | 4,025,000 | 75,000    |
| 学会誌収入    | 120,000   | 86,000    | ▲ 34,000  |
| 利子収入     |           | 3         | 3         |
| 南山大学より   |           | 282,144   | 282,144   |
| 東京経済大学より |           | 134,302   | 134,302   |
| (収入小計)   | 4,070,000 | 4,527,449 | 457,449   |
| 合計       | 8,120,437 | 8,577,886 | 457,449   |

現金・預金残高

| 令和元年度期首  | 小計        |
|----------|-----------|
| 郵貯事務センター | 2,952,579 |
| ゆうちょ口座   | 1,010,943 |
| 福岡銀行     | 82,862    |
| 現金       | 4,053     |

|      |           |
|------|-----------|
| 期首繰越 | 4,050,437 |
|------|-----------|

| 令和元年度期末  | 小計        |
|----------|-----------|
| 郵貯事務センター | 4,670,905 |
| ゆうちょ口座   | 18,174    |
| 福岡銀行     | 365,007   |
| 現金       | 0         |

|      |           |
|------|-----------|
| 期末繰越 | 5,054,086 |
|------|-----------|

2. 支出の部

| 項目          | 予算額       | 決算額(b)    | 差額(a)-(b) |
|-------------|-----------|-----------|-----------|
| 通信費         | 180,000   | 142,448   | 37,552    |
| 消耗品費        | 60,000    | 27,096    | 32,904    |
| 事務補助費       | 600,000   | 300,327   | 299,673   |
| 学会開催補助費     | 800,000   | 800,000   | 0         |
| 理事会開催補助費    | 105,000   | 91,782    | 13,218    |
| 各種委員会開催費    | 50,000    | 9,720     | 40,280    |
| シンポジウム等補助金  | 130,000   | 105,000   | 25,000    |
| 学会賞         | 90,000    | 72,090    | 17,910    |
| 国際交流費       | 300,000   | 292,350   | 7,650     |
| 払込手数料       | 75,000    | 70,256    | 4,744     |
| 学会誌購入       | 1,750,000 | 1,584,000 | 166,000   |
| 学会webサイト運営費 | 35,000    | 28,731    | 6,269     |
| 雑費          | 20,000    | 0         | 20,000    |
| 予備費         |           |           |           |
| 小計          | 4,195,000 | 3,523,800 | 671,200   |
| 繰越金         | 3,925,437 | 5,054,086 |           |
| 合計          | 8,120,437 | 8,577,886 |           |

上記の通り報告致します。

常務理事(財務担当)

永星 浩一

会計担当幹事

池下 研一郎

会計担当幹事

野崎 竜太郎

監査の結果、上記相違ありません。

監 事

中村 大輔



## 令和2年度 日本応用経済学会 予算

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

### 1. 収入の部

| 項目       | 予算額       | 備考                          |
|----------|-----------|-----------------------------|
| 繰越金      | 5,054,086 |                             |
| 会費収入     | 4,025,000 | (10,000円×390人)+(5,000円×25人) |
| 学会誌収入    | 120,000   | 掲載料10,000円×6人+投稿料6,000×10人  |
| 利子収入     |           |                             |
| (R2収入小計) | 4,145,000 |                             |
| 合計       | 9,199,086 |                             |

### 2. 支出の部

| 項目          | 予算額       |             |
|-------------|-----------|-------------|
| 通信費         | 180,000   |             |
| 消耗品費        | 60,000    |             |
| 事務補助費       | 600,000   |             |
| 学会開催補助費     | 800,000   | 400,000円×2回 |
| 理事会開催補助費    | 105,000   | 52,500円×2回  |
| 各種委員会開催費    | 50,000    |             |
| シンポジウム等補助金  | 130,000   |             |
| 学会賞         | 90,000    |             |
| 国際交流費       | 300,000   | 2人2泊宿泊費     |
| 払込手数料       | 75,000    |             |
| 学会誌購入       | 1,750,000 |             |
| 学会webサイト運営費 | 35,000    |             |
| 雑費          | 20,000    |             |
| 小計          | 4,195,000 |             |
| 予備費         | 5,004,086 | 次期への繰越金予想   |
| 繰越金         |           |             |
| 合計          | 9,199,086 |             |